

平成20年度 第1回南丹市行政評価推進委員会

議 事 録

日 時：平成20年10月15日（水）午前10時～12時

場 所：南丹市国際交流会館2階第1・第2研修室

出席者：南丹市行政評価推進委員会委員

四方宏治委員長、窪田好男委員、谷口和久委員、宮本美恵子委員、村上幸隆委員

事務局

仲村副市長、上原企画管理部長、大野総合政策課長、吉田課長補佐、國府係長

1. あいさつ（仲村副市長）
2. 委嘱状交付（仲村副市長より各委員に交付）
3. 委員長選出（四方宏治委員を委員長に選出）

4. 協議・報告

1) 行政評価推進委員会の進め方について

事務局：【資料に基づき説明】

委員：外部評価で評価するのは、資料にある「評価表」でよいのか？「指標作成シート」は関係ないのか？

事務局：「指標作成シート」も提示し説明するが、最終的には「評価表」を評価し、意見をいただきたい。

委員：市民モニターの反応がよくないことをどうするのか？市民モニターと外部委員の乖離が出てくる。これはある意味、現実にすんでいる市民モニターの意見が正しいのではないかとただ母数が少ないと統計的にはどうかという部分がある。また、市民というのは夜間人口だが、昼間に仕事や学校で入ってきている人の意見を汲み取る必要はないのかと思う。

委員長：委員会での外部評価に関する様式が別途あるのか？この「評価表」で行うのか？

事務局：別途の書式は定めていない。「評価表」により、意見をいただきたい。事務局も進め方について、いろいろな情報をもとに模索をしている段階。今年度はもう後半に入ってきた。物理的に年度内にまとめをいただくことは難しいと考えている。今から1年間の取組みというスタイルも含め、当面は意見をいただいて整理をしていると考えている。

委員：今年度残された時間の中でどれだけをするかということだが、内部評価74事業のラインナップと抽出基準はどうか？74事業を残された中では全部見られないと思うので、どういう形で絞り込んで、評価表を見て、外部評価で何をしなければならぬかを判断しなければならないので、資料を早めに出していただきたい。「評価

表」で評価をしなさいということであれば、情報量が少ない。具体的には消防施設の事業でいうと現状の充足率や目標などがあって、予算の配分とかを考えないと意見を言えない。

事務局： 74事業を抽出したのは、5つの観点で絞った。1点目は、総合振興計画実施計画に掲載された事業、2点目は平成18・19年度に実施をし、21年度以降も継続する予定の事業、施設管理や義務経費を除いた事業、そして、事業費の3/4以上が一般財源で対応している事業、5点目が指定管理料が1,000万円以上というルールを定めて抽出したのが74事業。これを今、内部評価として提出されたものをチェックしヒアリングをしている。評価委員会では74事業全部は無理であるので、このうちから再度抽出する。現時点ではヒアリング中であり事業数は明確にできない。

事業の内容がわかる資料は準備し、事前に各委員に配布する。

委員： 評価表による内部評価をして行革につなげるというアイデアはスタンダードなものであるが、同時にどこでもあまり効果をあげていない。表自体は非常に工夫されており、うまくできていると思うが、担当者に自分で事業を切らそうとする時点で無理がある。評価をするときのチェックポイントが20個くらいあり、どれかに引っかかれば、この事業はよくないことになる。ただし、引っかかったからその事業は廃止しなければならないかといえ、そうではなくて、説明の仕方を直すとか、事業の中身を組み直すとかで対応できることが多い。ただし、他団体では、引っかかったことがよくないとして廃止していることも多い。また、チェックをすべてクリアしたとしても行政環境を考えれば切らなければならないこともある。担当者は何をしているのかわからなくなる。評価表は担当者が作ればよいが、決断をするところがどこなのが見えにくい。原課でやらそうとしているのか、行革本部か、総合政策課がやるのか、担当者ではたぶん無理だから決めたほうがよい。外部評価委員会はその結果をいろいろな専門や経験から意見を述べるのが、スムーズに運ぶ形である。ヒアリングなどを行うのであれば、A4で2ページか4ページ程度の資料を出していただいて、それを見て評価をするほうが早い。

事務局： 事業説明用の共通の様式を検討したい。意思決定の体制については、外部委員会では意見をいただく場、決定は行革幹事会、推進本部で機関決定することを考えている。評価表や資料については、回を重ねながら、指導を受け改善もしていきながら進めたい。

委員： この時期からスタートして、どこまで次年度の予算にもっていけるのかという日程的な問題もある。この委員会がいつまでに何をどう評価するのかということを決めて、実質的に平成21年度に活かすことは無理なんだということであれば、内部の評価を参考にして、次の年に向けて本格的に作業を進めていく形をとるのかを決めてスタートするほうが効率的ではないか。

事務局： 21年度予算編成については、まとめをすることは物理的に無理な状況に来ている。1回、2回の委員会でもいただいた意見を整理して、一つでも反映できることはしていきたい。

委員： 事業評価をし、ヒアリングをしているとのことだが、考え方によっては、担当部長のほうからこんな事業やりたいんだというプレゼンをしてもらうという発想じゃないと。それが出ないのであれば、そんな部はいらないではないか。事業が市

民に説明できないのであればそれ自体いらぬものということでやっていったほうがよい。担当者が自分から止めるというのはなかなかない。しかし、やりながらこれでいいのか？と思う人はいると思うので、プレゼンをしてもらうことが効果がある。

事務局： 参考にさせていただき、内部で検討する。

委員： 評価を進めるうえで、これだけは押さえておこうということを委員間で確認しておいたほうがよいのでは？

委員： 事務局は、評価表の書き方などのコーチングの役割もあれば、地域がどういう方向に行けばよいかという大局的な話も期待されているわけで、そのために施策体系がうまくいっているかということを見る必要がある。コーチングの部分は委員会以外で事前にやればよいと思う。

委員長： 委員会では、事業のプロセスや内部評価を評価するというのが、主たる目的ではないかと思っている。範囲が広く漠然としているが、試行錯誤しながら、途中で軌道修正があってもいいのではないかと思う。

委員： 施策がうまく事業につながっているかという整合性や解決しようとする課題が今取り組まなければならないものかとか実現しようとする目的が上位の目的と適合しているかという点について、外部の視点で意見を出すということが重要な役割である。

2) その他

事務局： 日程調整の結果を報告

次回日程 平成20年11月10日(月)午後2時～5時

なお、窪田委員長長期出張のため欠席。

報酬等支払口座の指定について依頼。

5. 閉会(四方委員長)